

報道関係者 各位

平成 29 年 12 月 26 日

【照会先】

健康局 結核感染症課

国際感染症対策室長

課長補佐

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

野田 博之(内線 2373)

繁本 憲文(内線 2926)

## 世界保健機関（WHO）の要請を受け、12月26日から、 感染症診療の日本人専門家をバングラデシュに派遣します

厚生労働省は、このたび、平成 29 年 12 月 26 日から平成 30 年 1 月 15 日までの期間、感染症診療に関する日本人専門家をバングラデシュに派遣します。

ミャンマーのラカイン州北部の情勢を受けてバングラデシュに流入してきた避難民のキャンプでは、ジフテリア<sup>※1</sup>が今年 11 月から流行しており、12 月 19 日までに 1,841 人の患者（うち 22 人が死亡）が発生しています。このため、国際協力の一環として、世界保健機関（WHO）からジフテリアの専門家の派遣要請を受け、ジフテリアが流行しているコックスバザールの避難民キャンプに対して、日本人専門家を派遣します。

今回の派遣では、東京都保健医療公社豊島病院感染症内科医長の足立拓也医師<sup>※2</sup>を派遣することに決めました。平成 29 年 12 月 26 日から平成 30 年 1 月 15 日までの派遣期間とし、足立医師は現地の疾病発生や診療・対策状況などについて調査・評価を実施する予定です。

厚生労働省は、今後とも、開発途上国を含む諸外国に対して、専門家の持つ知識・経験・技術を生かし、医療面等での支援を行っていきます。

※1 ジフテリアはジフテリア菌により発生する疾病です。その発生が日本で最後に報告されたのは 1999 年です。現在では珍しくなりましたが、かつては年間 8 万人以上の患者が発生し、そのうち 10%程度が亡くなっていた重大な病気です。主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全などを来たして、重篤になる場合や亡くなってしまふ場合があります。

※2 足立医師の過去の実績：2014 年～2016 年に西アフリカにおいてエボラ出血熱が流行した際に、エボラ出血熱対策に関する日本人専門家として 2 回派遣された経験があります。

### 【ジフテリアに関する詳細】

厚生労働省検疫所ホームページ

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name56.html>

# ジフテリア(Diphtheria) 概要

## 基本情報

感染症法上の2類感染症

病原体 ・ジフテリア菌(*Corynebacterium diphtheriae*)による感染症。

感染経路 ・飛沫感染。

症状 ・潜伏期間は2-5日。

・初期症状は発熱・咽頭痛・嚥下痛など。悪化すると気道閉塞や心筋炎による突然死のリスクがある。

・致命率は5-10%。

発生状況 ・日本では予防接種を1948年に開始した事により、1945年の86,000例をピークに減少を続け、近年は報告がみられない。

・世界的にワクチン接種が進められている。

・2017年はベネズエラ、パキスタン、ハイチ、イエメン、バングラディッシュ、インドネシアで流行がみられた。

## 予防・治療

予防 : 単価ワクチン、2種混合、4種混合ワクチンがある(国内の接種率100%)。

抗菌薬 : ペニシリン、エリスロマイシンなど。

血清療法 : 乾燥ジフテリアウマ抗毒素。

## バングラデシュの避難民キャンプでのジフテリアの流行

### 背景

- ・2017年8月25日以降、ミャンマーからバングラデシュへ60万人以上の避難民が流入し、以前からの避難民と合わせて90万人以上がバングラデシュ・コックスバザールの避難民キャンプに收容されていると言われている。

### 状況

- ・避難民キャンプでは、11月8日に国境なき医師団(Médecins Sans Frontières: MSF)の診療所から最初のジフテリアの疑い症例が報告され、その後、国際赤十字赤新月社連盟(International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies: IFRC)からも報告があり、11月26日には世界保健機構(WHO)が調査団を派遣。
- ・2017年12月19日までに1,841人のジフテリアの患者が報告され、うち22人が死亡した。
- ・報告例はすべて避難民で、症例の75%は15歳以下。
- ・現在、バングラデシュ保健省が保健分野のドナー関係者とともに、ジフテリアの急速な拡大に対応するための調整メカニズムを立ち上げ、対応中。



世界保健機構(WHO)の現地での対応

- ・15歳以下の子供へのワクチン投与の支援(12月12日より開始)。
- ・12月19日に、わが国が1,083万\$を拠出しているContingency Fund for Emergencies から150万\$の追加資金を拠出することを決定。
- ・ジフテリア抗毒素1,000バイアルの調達・提供を予定。(12月12日までに340バイアルが到着)